

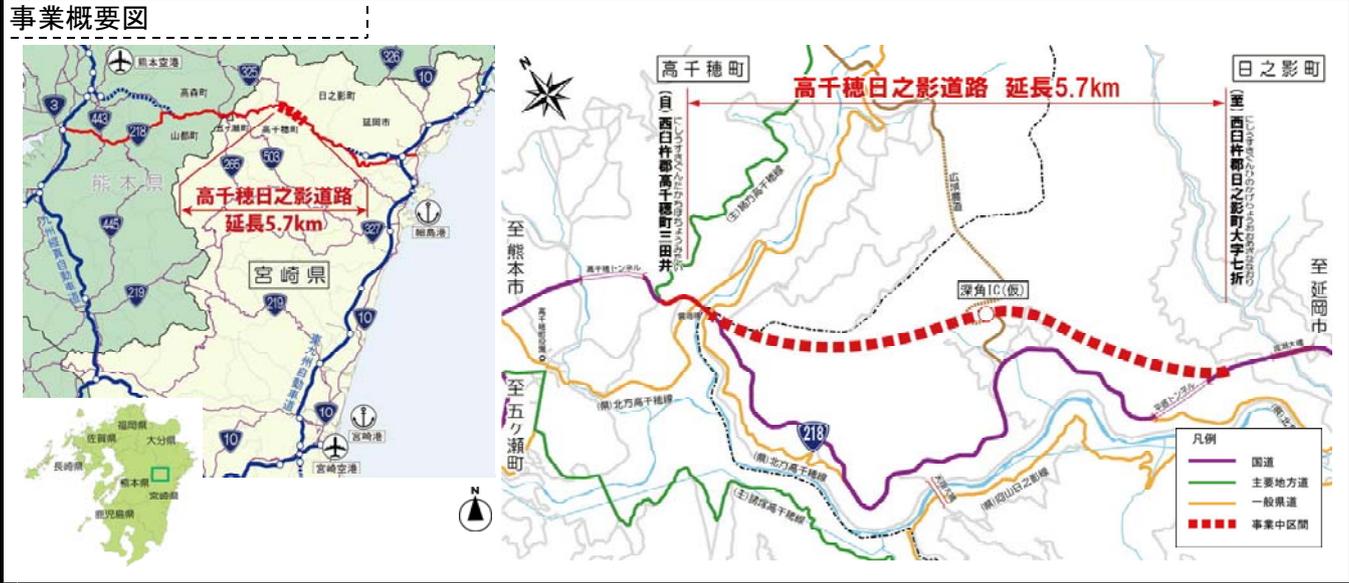
再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道218号 <small>たかちほひのかげどうろ</small> 高千穂日之影道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 自：宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井 <small>にしうすきぐんたかちほちようみたい</small> 至：宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折 <small>にしうすきぐんひのかげちようおおあざななおり</small>	延長 5.7km				
事業概要 高千穂日之影道路は、熊本市と延岡市を結ぶ広域交通ネットワークを形成することにより、産業振興の支援を図るとともに、国道218号の交通安全性の向上等に貢献する事業である。					
H20年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H24年度用地着手	H25年度工事着手		
全体事業費	約206億円	事業進捗率	10%	供用済延長	0.0km
計画交通量	9,500～9,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 135/193億円	総便益 334/334億円	基準年 平成26年	
	(残事業)	事業費：122/180億円 維持管理費：13/13億円	走行時間短縮便益：272/272億円 走行経費減少便益：46/46億円 交通事故減少便益：16/16億円		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.6～1.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.6～1.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.7～1.8（事業期間±20%）					
事業の効果等 <ol style="list-style-type: none"> ①広域交通ネットワークの形成 <ul style="list-style-type: none"> ・周遊性の向上による観光活性化 ②交通安全性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・点在する現道の線形不良箇所の回避が可能となり、走行環境の改善による交通安全性の向上 ③救急医療活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・第三次救急医療施設（県立延岡病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ④災害時の移動経路確保 <ul style="list-style-type: none"> ・災害リスク箇所の回避による安全性の向上 ⑤生活環境の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO₂, NO₂, SPM削減） 					
関係する地方公共団体等の意見 宮崎県・熊本県知事をはじめとする各関係県・市町の首長等で構成される①九州中央自動車道建設促進協議会（会長：宮崎県知事）や②九州中央自動車道建設促進沿線議会期成会（会長：延岡市議会議長）等により早期整備の要望を受けている。（①平成26年5月、②平成26年5月）					
県の意見 一般国道218号高千穂日之影道路につきましては、昨年度よりトンネル工事に着手されるなど工事が着実に進捗していると伺っております。本路線は、将来的に九州中央自動車道の一部となり、九州東西間を連結しミッシングリングを解消するとともに、経済インフラとして九州全体の高速道路ネットワークの多重化を図るうえで重要な路線であります。また、南海トラフ巨大地震等の大規模災害時には、人命救助や救援物資の輸送等のための「命の道」となることから、将来高速道路の一部となる本路線の整備は最も優先されるべきであると考えております。 以上から「対応方針（原案）」案の「継続」について異論はなく、本路線の早期供用に向けて、より一層の整備推進をお願いします。					

事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向。国道218号現道の交通量は近年横這い。	
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成20年度に事業化、用地進捗率34%、事業進捗率10%（平成26年3月末時点）	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。	
施設の構造や工法の変更等 施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。